



# 学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第3号

令和2年5月14日発行

文責 校長 宮地 浩幸

## 実践的コミュニケーション能力の育成

昨年度同様、本年度の研究テーマを「実践的コミュニケーション能力の育成」としました。これは、教育目標「ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成」を実現するために特に子ども達に身につけさせたい資質や能力を獲得させる教育方法を学校職員が研究するための視点です。

課業日には、毎日子ども達の授業を参観します。本校では先生一人に対して子どもは一人または二人であり、ほぼ先生と生徒の間での対話的な学びが実施されます。このことは先生が生徒の細かい反応まで把握でき、その理解や疑問に対応した授業ができることで学力向上にかなり寄与します。簡単に言えば子ども達のニーズに完全にマッチした指導が先生方にはできるという環境が整っていることとなります。

しかし、本校の子ども達は同年齢の子ども達との対話的な学習ができません。子ども達の学習内容の獲得には他者との関わり、特に同年齢の子ども達との議論が必要不可欠だと考えられています。最近、「対話的で深い学び」が推奨される理由がここにあります。その機会を多く作るために ICT の力（テレビ会議）を借りて実践しようとしているのが研究の取り組み内容です。本校の子供たちも将来的には、大勢の中での討議の場面に関わっていくことも少なくないと思います。そのような場面に立っても本校で学んだことにより培った資質や能力を十分活用し、未来社会を担う一員になって欲しいと願っています。



## 臨時休校で思うこと

今年は、私自身もこれまで経験したことのない状況が続いています。もちろん新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校です。今全世界の人たちほとんどが新型コロナウイルスの終息に向けて我慢しているときです。私たちも、自分にできることをしっかり判断し、少し窮屈な毎日を乗り越えなければなりません。長いトンネルにいるようですが、きっと光は見えてくるはずです。

そんな臨時休校中に、子ども達が登校して来ない学校で仕事をしていると子ども達が普通に登校し、勉強やスポーツを行っている学校生活のありがたさがわかります。たぶん子どもたちもそのことをこれだけ休校が長くなると身にしみて感じているのではないかなと思います。世の中には規模が大きい学校から本校のように児童生徒が全部で6人という小さな学校もあります。しかし、学校に来て他者と関わり深く学んでいくことは全ての学校に共通しています。

最近、情報機器の普及により独りでも学習することができるような環境を整えることができます。いわゆるオンラインでの授業です。ひょっとして将来的には、学校に行かなくてもお家で授業を受けることができるような時代が来るかもしれません。佐賀県は ICT 教育の最先端を行く県です。その機器の普及率は全国でも断然トップを走っています。新型コロナウイルス感染拡大防止のためには 8 割の人と人との接触をなくす必要があると安倍首相は言っています。だから、仕事はテレワークを推奨しています。それに合わせるように、学校もオンラインの授業ができないか準備を進めているところです。この緊急事態を早く終息させるための方法を模索しているのです。

さて、学習は学力を向上させるために行います。そして端的には、通知表などで個人の成績として評価を受けます。このように考えれば、学習は個人が一生懸命にどのくらい頑張れるかが、問題になるような気がします。私たちは、集中しているときに周りがうるさいと気が散るといことがあります。学習はお友達と関わり合いながらするのが良いのでしょうか。それとも独りで行うのが良いのでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う臨時休校が長く続き学校に早く登校して勉強できるようにするために、学校に来なくても授業を受けることができる環境を設定しようとしています。ちょっと矛盾するような話ですが、今学校に来れない状況が多くの人たちにストレスを与えているという事実は否めません。学校は子ども達が登校し、毎日授業や部活動を規則正しく行うことで心も体も安定させているのです。成績は個人の問題ですが、その内容を高めるために、個人の努力は大切ですが、他者との関わりがあって、それを高めていることが多いのです。例えば、今新型コロナウイルスの特効薬を模索する中で、いくつか候補が上がってきていますが、一面的な見方だけで判断するととんでもないことが起こります。多くの違った面から意見が出せる専門家たちの議論が必要なのです。これに似たような学習を、教育界では「対話的で深い学び」と呼んでいます。つまり他者と議論する中で学習内容を深めようとしています。またそのような学力が求められているのです。

臨時休校に伴い学校の存在意義を改めて感じ取ることができます。今年の臨時休校は私たちにとっては、確かにこれまでにない不利な状況を作っていますが、この臨時休校があったから改めて分かったこともあります。ピンチをチャンスにとらえて頑張ることができる子どもたちの育成の一助になれば今回の事もプラス思考でとらえることができます。そう思える日が早く来るよう新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。

## 学校安全の見直し

先日、グラウンドを見ると休み明けに、草刈りをしてもらっている跡があったり、グラウンドの周りの防球ネットを支えている支柱が腐食していることの連絡を受けたり、地域の方や保護者に学校環境整備の援助を受けていることが多いことに感謝します。また、地域の方が温かく子ども達や私たちに挨拶をして下さることに、安心感を覚えます。

私の前任校は佐賀市ですが、佐賀市では「まなざし運動」を推奨しています。今、子供たちの安全を脅かすような事件や事故は多発しています。しばらく前は子どもの命に関わるような事件がマスコミを騒がすこともありました。大きな事件にはなっていないようですが、不審者の情報は佐賀市ではよく学校に届きました。危機管理は学校現場においては絶対的です。

島の学校に赴任して、島民の方々のまなざしに依存して、子ども達の安全安心を担保していただいていることを実感しています。学校の方でも子どもたちが安心して登校できる環境を作っていきたいと思いますが、至らないことも数多くあると思います。保護者や地域の方々のご意見やご助言は学校改善には欠かせません。何かありましたら、学校の方へご連絡いただくと助かります。また、校長室の入り口は開いていますので、いつでもお立ち寄りください。

